特集 英語を使う技能の育成

言語活動を広げる「選択的な扱い」

立花千尋（神戸大学発達科学部附属住吉中学校）

1. はじめに

学習指導要領に定めている語彙数や言語材料が削減され，学力低下が叫ばれているなか，文部科学省はその対応策として，「学習指導要領は指導内容の最低基準を示すものである」と発表した。そして選択的な学習を配置したねらいは，1つには，その学力低下への対応策であり，もう1つには，言語学習の主要な目的である英語による自己表現力や英語運用力などの，いわゆる実践的コミュニケーション能力を育成するためである。

2006（平成18）年度版 *NEW CROWN* の教科書には，今回の改訂の特長として，「個に応じた指導」に対応する選択的な学習のパートを新たに配置している。DO IT（TALK, LISTEN, WRITE）の TRY と，語句・表現の補充としての WORD BANK，選択的な読みものとしての READING PLUS がそれにあたる。

ここでは，DO IT の TRY を中心に紹介しながら，その趣旨やねらいを示してみたい。

2. 新たに加わった TRY のねらい

TRY のねらいは，基礎的な既習事項をさらに深め，自分の思いや考えを，英語で積極的に表現できるようにさせることである。TRY の構成の趣旨は次のようになっている。

① よりインタラクティブな活動になっている。
② 生徒が自分の視点に引き寄せて表現できる内容になっている。
③ 書く・読むなど，他の技能と組み合わせた活動も入っている。

またレッスンから自然に流れるように，本課の内容と緩やかな関連性を持たせているのが今回の改訂の特長である。

3. 具体的な TRY の展開と趣旨

(1) DO IT ― TALK の TRY

ここでは，Talking Point の基本表現をしっかり練習させ，基礎・基本の定着がはかられたあと，いよいよ TRY にチャレンジさせる。練習したことが運用力につながることが大切なので，言語練習から言語運用へリンクさせ，段階的な練習ができるように構成されている。そして，段階が進むにつれて生徒の英語による自己表現の場を増やしていくような言語活動がデザインされている。しかしその場合，生徒が自己表現をするための単語や語句のサポートが必要であり，活動の際に参考となる語句や表現の入った WORD BANK がその役割を果たしている。

TALK（TRY）の展開＜2年の場合＞
DO IT ― TALK 2（本誌14ページ参照）
「どうやって使いますか？　方法をたずねるとき」

TRY の進め方であるが，3段階の構成になっている。

第1段階では，A と B のペアによる対話例文に従って，指示された部分を生徒自身のことばに置きかえて対話練習をする。

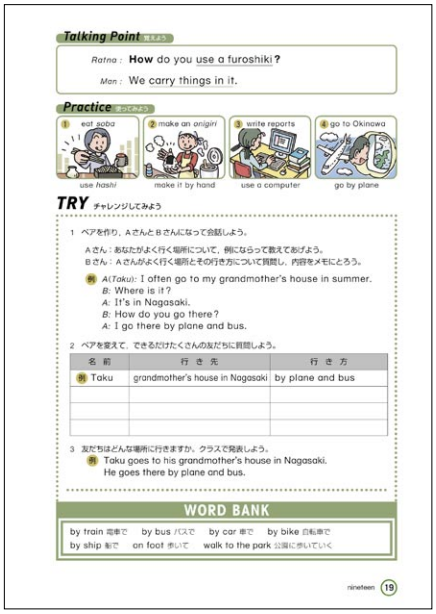
＜対話例文＞

A: I often go to my grandmother's house in summer.
B: Where is it?
A: It's in Nagasaki.
B: How do you go there?
A: I go there by <u>plane and bus</u>.

WORD BANK には，by train，by car など，下線

部にかわる表現が示されている。これを生徒が参考にすれば表現に広がりが出てくる。

第２段階では，相手をかえてできるだけ多くの相手と対話練習をさせることによって，Talking Point の英文の理解と定着をはかると同時に，相手から新たな語句や表現を学ぶ機会を得ることができる。


Talking Point 見てみよう
Ratna : How do you use a furoshiki?
Man : We carry things in it.
Practice 言ってみよう
① eat soba ② make an onigiri ③ write reports ④ go to Okinawa
use hashi / make it by hand / use a computer / go by plane
TRY チャレンジしてみよう
1 ペアを作り，AさんとBさんになって会話しよう。
Aさん：あなたがよく行く場所について，例にならって教えてあげよう。
Bさん：Aさんがよく行く場所とその行き方について質問し，内容をメモにとろう。
例 A(Taku): I often go to my grandmother's house in summer.
B: Where is it?
A: It's in Nagasaki.
B: How do you go there?
A: I go there by plane and bus.
2 ペアを変えて，できるだけたくさんの友だちに質問しよう。

名前	行き先	行き方
例 Taku	grandmother's house in Nagasaki	by plane and bus

3 友だちはどんな場所に行きますか。クラスで発表しよう。
例 Taku goes to his grandmother's house in Nagasaki.
He goes there by plane and bus.
WORD BANK
by train 電車で　by bus バスで　by car 車で　by bike 自転車で
by ship 船で　on foot 歩いて　walk to the park 公園に歩いていく
nineteen 19

TRY チャレンジしてみよう
ジャックが休日の家族の様子をビデオで撮影しています。
1
ビデオの音声を聞いて，ジャックの家族がそれぞれ何をしているか，メモにとろう。
a b c
例 走っている
2
もう一度聞いて，下線部に単語を書き入れよう。
例 My brother is running over there.
① My father and Peach _____.
② My sister _____ the _____.
③ My mother _____.
Peach（イヌの名前）（ピーチ）
3
休日の家族や友だちの様子を想像して，その様子を伝える文章を書こう。書けたらクラスで発表しよう。
Hello, everyone. I'm _____（名前）. Today is Sunday. _____
seventy-five 75

第３段階では，対話で相手から得た情報をクラスの仲間に発表することによって，情報を整理して自分のことばで伝える機会になる。

このように，聞いたり話したりした内容を書くことによってライティング能力を育成することができ，４技能の統合された英語力が身につくように構成されている。

(2) DO IT ― LISTEN の TRY

ここでは，「聞く」技能が自然に身につくようにすることがねらいであり，場面設定や活動の内容を実生活でもありうるようなものにしている。DO IT ― LISTEN の活動にさらに TRY を加え，とても充実した「聞く」活動ができるようになっている。

LISTEN（TRY）の展開＜１年の場合＞
DO IT ― LISTEN 4 「文化祭で」（右上ページ参照）

DO IT ― LISTEN の STEP 1, 2 の聞き取り（話題：文化祭 / 言語材料：進行形）が終わったあとで，TRY の活動に移る。LESSON では言語材料として現在進行形を導入し，米国の中学生の日常生活について紹介しているので，TRY でも同じく現在進行形を用いて日常生活の話題を扱っている。

第１段階は「聞く」技能の活動であり，それぞれの人が「何をしているか」キーワードを聞き取ってメモをする。

第２段階は「聞く」技能と「書く」技能の統合的な活動になっている。もう一度，同じ音声を聞いて，空欄に英語を記入する。

第３段階は「書く」技能と「話す」技能の統合的な活動になっている。２で聞き取った英文を参考にして，自分自身の休日の様子ついて英文を書き，クラスで発表する。

このように，「聞く」から「書く」，さらに「書く」から「読む」，そして「話す」活動へと展開している。

(3) DO IT ― WRITE の TRY

WRITE については，現行版の *NEW CROWN* でも行ってきたプロセス・ライティングの手法を用いている。詳細は次の「書く力を伸ばす」の稿に委ねるが，DO IT ― WRITE でも TRY の最後で，それぞれが作成した個性的な英文をクラスで発表させ，「書く」から「話す」活動が設定されている。

4. おわりに

選択的な活動である TRY や WORD BANK を足がかりに，さらに実際に生徒が用いた語句や表現を蓄積させていけば，より一層生徒の表現を豊かにしていくことが可能である。生徒自身のことばで表現できたという実感の積み重ねが，学習意欲と自信につながっていくのではないだろうか。